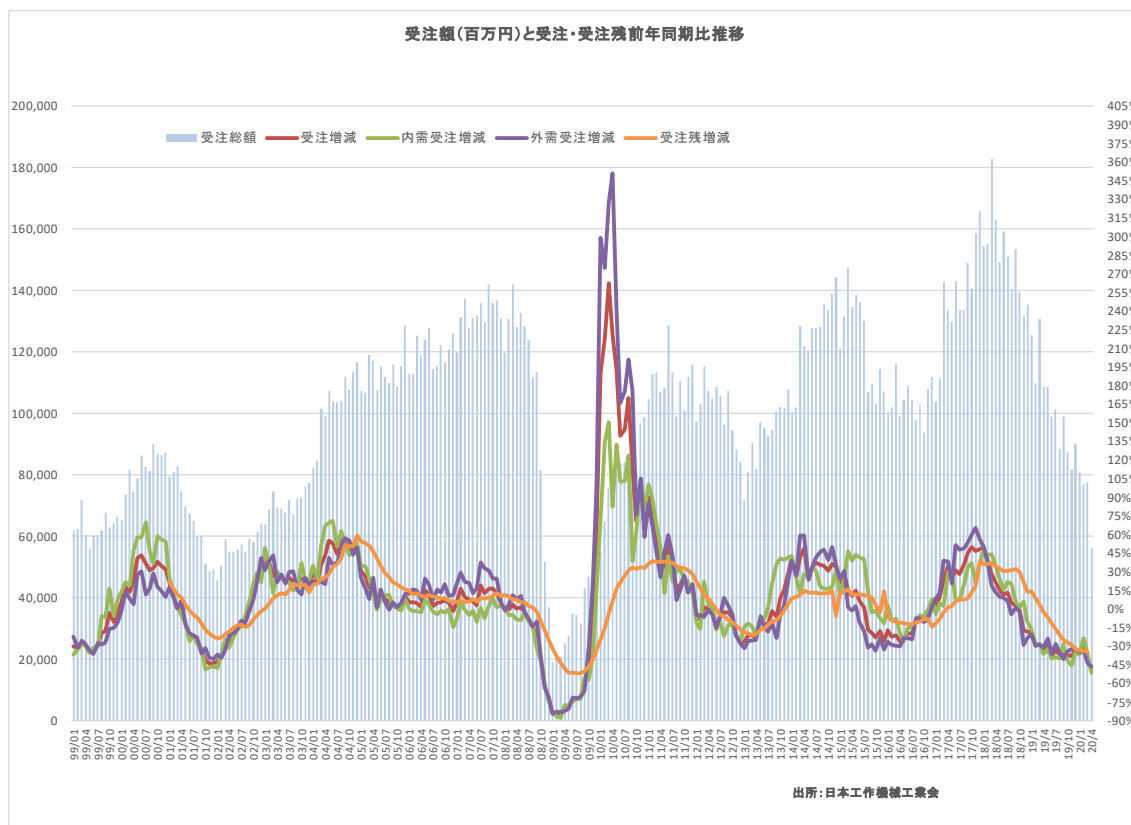


## 工作機械工業会 4月受注速報 4月48.3%減561億円で5月以降もコロナ影響続く

### 4月受注は同月比48.3%減561億円、2010年1月以来、10年3ヶ月ぶりの600億円割れ

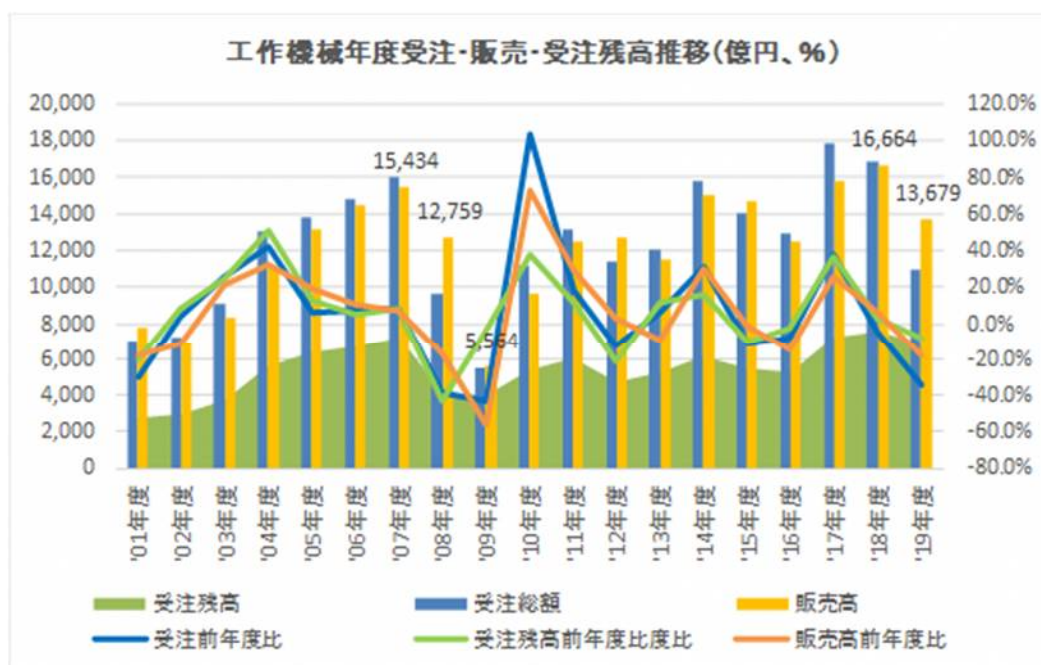
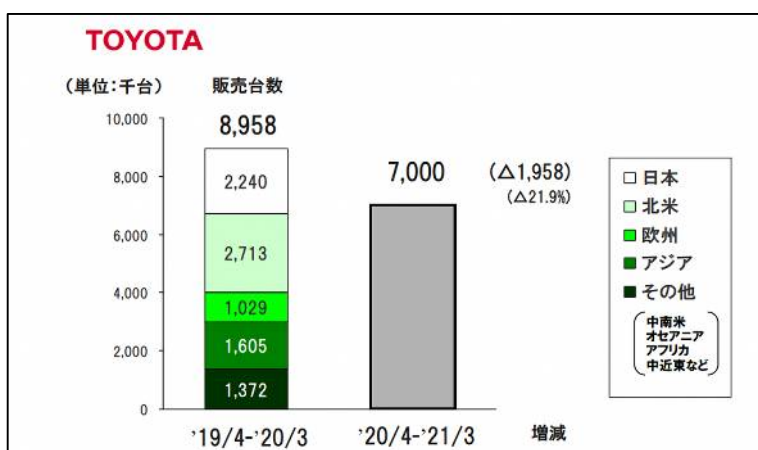
5/14の15時に日本工作機械工業会の4月受注速報が開示予定された。月受注は前年同月比48.3%減の561億円と、2010年1月以来、10年3ヶ月ぶりの600億円割れとなった。前年同月比19ヶ月連続減少、4月としてはリーマンショック後の2009年4月252億円ほどではないが、悲惨な数字。内訳は内需が212億円(51.4%減)で17ヶ月連続減、前年同月比で半減以下となったのは2009年10月以来。外需は350億円(46.3%減)で、19ヶ月連続マイナス、2009年11月の321億円以来の低い水準。今後、国別開示、業種別開示は5/26の確報待ちとなるが、4月は中国についてコロナでの封鎖解除と助成金の駆け込みで底打ちも、中国を除く全世界でコロナウイルスの影響が現れたと見られる。



### 2020年度受注は7000億円(36%減)と2年連続3割減懸念

コロナウイルス影響は人的交流を世界的に阻む動きにあり、特に最大需要先の自動車は勝ち組のトヨタですら下期からの緩やかな販売の回復(年間では21.9%減の700万台)を想定、設備投資なども年度を通じて低迷が見込まれる。また破綻が相次ぐエアラインからの発注キャンセル、新機種開発見送りの航空機業界は長期の設備投資停滞が懸念される。半導

体や 5G 向けで受注拡大が見込めるものの、全体に占める構成比が小さく、受注の回復は少なくとも秋口以降にずれこもう。このため 2020 年度受注は 7000 億円（36%減）、2 年連続で 30% 減も視野に入る。



### 工作機械、関連企業の業績低迷発表相次ぎ上期赤字転落懸念広がる

足元で工作機械各社の 20/3 期決算発表が行われているが、減額修正が大半、既に 20/3 期から赤字転落となった企業もある。また 21/3 期予想は赤字転落、大幅減益、もしくは予想未定としており、実際には大半は上期赤字転落懸念がある。3 月期決算以外の企業でも Q1 赤字が相次ぎ、早くも減額修正発表に至る企業もある。

